

一集 会 状 況一

	男	女	計
主 日 礼 拜1/31	22	73	95
教 会 学 校1/31	8	17	25
成 人 科1/31	1	4	5
婦人会聖日例会1/31	1	30	31
婦 人 会2/ 2	1	10	11
入 門 講 座 I 2/ 4	2	7	9
入 門 講 座 II 2/ 4	2	0	0

一牧 師 室 よ り一

ダニエル書を学び終えた。ダニエル書はバビロンのネブカドネツァル王のBC 6世紀に時代設定されているが、実際はBC 2世紀のスリヤのエビファネス王の迫害時代に書かれたものである。迫害を避けるため時代をずらし、過去の王の名前に変えている。エビファネスはエルサレムを占領し、あらん限りの暴政を行なった。虐殺はもとより、最も忌み嫌う豚を神殿に飾り、祭司の館を遊郭にした。

新約聖書時代まで「憎むべき破壊者」とエビファネスを評する常套語が残されている。この迫害時代架空の人物ダニエルの信仰を貫き勝利していく姿が描かれている。ヨハネ黙示録と同じように、私は「抵抗の信仰文学」と見る。又ダニエルは奇妙な幻を見せられる。その幻は歴史の終りの神の国の幻である。著者は明らかに神の歴史支配を訴えている。ある注解書に「歴史の闇に響きわたる神の『然り』を聴き、確信することにより黙示的幻の現代における意味と活力を見出す」と要約していた。現実には迫害の闇であるが、神の歴史支配を信じることにより、生きる意味と勇気を与えることが、ダニエル書の目的であろう。これは今の時代にも全く妥当する。20世紀末の今日、歴史に安直な希望は持てないが、信仰者は神の支配・「然り」を信じ、希望に生きようとする。聖書は時代を越えて人の心に響く「神の言葉」が記されている。ただ、時代の闇の中で空しく抹殺されている者の無念さをどう理解すればよいのかと思う。

週 報

1993年2月7日 降誕節第7主日

卷 13 45号

1992年度教会主題

「復活の主を見る」

聖句 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

ルカによる福音書 24章31節～32節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 交わりを深めつつ、教会の新しい方向を求める。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323、045-833-6616

振替 横浜 9-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄